

学校だより しゅんいん

令和3年5月7日 (金)
第2号

相模丘中学校

『いじめのない教室文化の基礎固め』

～スティービーワンダーから学ぶ～

校長 水野澄雄

いじめは、「^{わるくて}かっこ悪くて」「^{みぐるしくて}くだらなくて」「^{かなしい}はずかしくて」「^{こうい}見苦しくて」「^{けっして}悲しい」行為です。決して、あってはならない行為です。



スティービーワンダーとは、アメリカの歌手で、全米 No. 1 のヒット曲を数々生み出したシンガーソングライターです。盲目の黒人で、年は70歳。シンセサイザーを駆使し、首を振りながら歌うのが特徴です。彼の曲は、私の青春時代によく聴きました。憧れの歌手です。

その青春時代にラジオで聴いた、彼の生い立ちの物語の内容を部分的に覚えていることがあります。彼は未熟児で生まれたため生まれつき目が見えなかったそうですが、物心ついた時に父親から、「お前は、目が見えないから鏡を見ることできない。だから、自分で自分を見誤ることがない」すなわち、鏡にはゆがんだ鏡がある。自分の身体が太った姿に映す鏡もあれば、やせた身体に見せる鏡もある。多くの人々が、鏡が真実だと思ってだまされる中、お前にはそれがない。それは長所だ。さらには、鏡にたよるということは、人の評価に頼ることだ。人からの評価に左右されるなということでしょう。さらに彼は、23歳の時に、交通事故に合い、味覚と嗅覚を失う。懸命なリハビリ訓練に励んだという。そして、32歳の時、ビートルズのポールマッカートニーとデュエットで歌った「エボニー・アンド・アイボリー」は、衝撃的な名曲でした。「ピアノの黒鍵 (Ebony) と白鍵 (Ivory) が一つのハーモニーを奏でるように、白人と黒人、白色人種と有色人種、すなわち人類が調和することはできないのか？」を問いかけるテーマの曲でした。



スティービーワンダーの生きる力は何なのでしょう…？
音楽という才能でしょうか？それとも努力でしょうか…？
彼にはいじめられた経験はなかったのでしょうか…？ 逆から言えば、こんなに真剣に生きている人はいじめをする、嫌がらせをするなんて考えられません。許せません。世界は、どんな少数意見も少数者も受け入れる共生社会でありたいと思います。それにはまず、小さな社会である教室からいじめのない文化をつくりたいと考えます。社会に出て行くための基礎固めは、今私たちが生活する教室で構築しましょう。

《令和3年度入学式・始業式・着任式》

4月5日(月)令和3年度入学式が行われました。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、保護者の皆さまには消毒や検温にご協力いただきながらの実施となりました。短時間の開催ではありましたが、168名の新1年生の姿に中学校生活への意欲が伝わり、体育館には温かい拍手が広がりました。

また、2・3年生の始業式・着任式は、今年度体育館で行われました。生徒代表の言葉からは、進級したそれぞれの責任と自覚をもった決意が伝わってきました。



《学年保護者会・学級懇談会》

4月20日(火)体育館にて、学年保護者会がそれぞれ行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学年別で実施しました。校長より学校経営について、学年主任より学年経営について、2・3年生は担任より学級経営について話がありました。

